

・・ 期間限定公開 ～ 2020.12.27 ・・

磨赤兒さんによるビデオメッセージ（全文）

絵金蔵開館15周年記念企画・その1「闇の中の魑魅魍魎上映会」にあわせ、本作主演・磨赤兒さんより特別にお寄せいただいたビデオメッセージの内容を期間限定で公開！

▼ 以下、本文です。

こんにちは、赤岡の皆さん。磨赤兒です。

絵金蔵 15 周年おめでとうございます。中平康監督の映画「闇の中の魑魅魍魎」で主役の絵師金蔵を演じさせていただきました。（撮影したのは）1970 年、ちょうど 50 年前ですね。色々思い出すことはたくさんありますが、赤岡では約 2 か月間、民家の一室を借りて寝泊まりをさせていただいて、皆さんに「絵金さん、絵金さん」とかわいがられました。当時は 27 歳、今は 76 歳（2020/3/2 現在 77 歳）になりましたけれど、銭湯に行けば「絵金さん、背中を流しましょう」、「一杯やりましょう」と、毎日酒漬けの 2 か月でしたね。酒は沢山ご馳走になったというか、浴びるほど飲まれたというか、返杯・返杯で大変でした。（飲んだ）翌日、顔を腫らしていくと、監督に「酒を飲みすぎだ！」と怒られたりして。それから、赤岡の雄大な海に泳ぎに行って、かまぼこ屋のお兄ちゃんに「余り沖に行くなよお前、サメに食われるぞ！」と言われて浜辺に上がったこともありましたね。1970 年の赤岡での撮影は思い出深い 2 か月でした。皆で朝食を食べていると、三島由紀夫さんが割腹自殺をしたというとんでもないニュースがテレビから入ってきましたね。スタッフ・キャストみんな一瞬箸が止まって、テレビに見入っていました。中平康監督も三島由紀夫さんの映画を 1、2 本撮られたようでしたので、「もうこれは三島由紀夫追悼記念ということにしましょう」と監督に言ったりしました。監督は「んむ、」とにやりと笑っていましたけれどね。

絵金蔵に飾ってある絵を観れば分かると思いますが、絵師金蔵さんは奇才と言われた大変な絵描きさん。僕ももう一度赤岡に行って、あの時間を取り戻したいような気がします。

その後赤岡の町を訪れたのは、林海象監督の「ちんなねえ」という映画の撮影（1996 年）ですね。林監督が絵金へのオマージュとして撮った、これも非常に面白い映画です。その後の絵金というようなイメージで、絵金さんの頭もはげで、僕もはげで。原田芳雄さんと一緒に赤岡の町をぶらぶらしながら撮影をしました。懐かしい（「闇の中～」の撮影時によく行った）銭湯に、うちのダンサー 4、5 人が浸かったり。もう営業していない、湯舟だけが残っていた銭湯をそのまま使わせてもらいました。

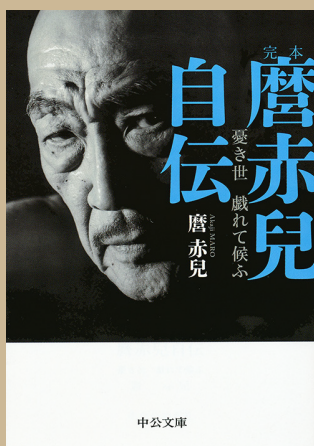
中平監督の話に戻りますが、独立プロ最初の映画ということでかなり気合を入れていました。中平監督のお父さんは日本が誇る有名な洋画の絵描きさんなんですが、お父さんの絵を売り飛ばして、そのお金を映画につぎ込んだと。お父さんも土佐に住んでいまして、陣中見舞いにいらして、「ウチの息子がもう酒ばかり飲んで。よろしゅう頼みますわ」と。監督は「お父ちゃんもうはよ帰り」とか言って、みんなで大笑いしたこともありました。そんな会話で和んだりして、楽しい2か月でした。

作品はカンヌ映画祭に出品されることになりましたが、残念ながら選外になってしまったんです。まあ、カンヌの審査員が悪かったんですね！ということにしておきましょう。

これから上映されるのでしょうけれど、力強い絵金の一生といいますかね、それが忠実に描き取られている映画かと思います。もう50年前ですから、色々思い出すとキリがありません。とにかくまた是非赤岡を訪れて一杯やりたいなあという気持ちであります。絵金蔵の皆さま、これからも頑張ってやってください。磨赤兒でした。

ひとつお知らせですが、この本（「完本 磨赤兒自伝 憂き世 戯れて候ふ（中公文庫）」）が2年前に出ましたけれど、この中に中平康監督の「闇の中の魍魎魍魎」の時代のことを少し書いておりますので、よかったら皆さん買って読んでみてください。どうぞ、よろしく。

▼ ご紹介の書籍はこちら



完本 磨赤兒自伝 —憂き世 戯れて候ふ

- ◆ 著 者 磨赤兒
- ◆ 出版社 中央公論新社
- ◆ 発行日 2017/8/22

国内外でその芸術表現を高く評価される舞踏家・俳優、磨赤兒。アングラの熱気溢れる60年代から現在までを綴る波瀾万丈の半生記。（本書あらすじより抜粋）

※転載・転写（コピー）等のご遠慮ください。

※公開期間は予告なく変更となる場合がございますこと、予めご了承ください。